

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報 第261号 2019年7月13日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2019



写真：写真部

夢を抱いて世界に羽ばたこう

CONTENTS

TOPICS

- | | |
|--|--|
| 学長からのメッセージ 1-2
2019年度 入学式 学長告辞 | 附属学校園からのお知らせ 7-8 |
| 学生のアクティビティ 3-4
ピジョン社主催
「学生アイデアコンテスト2019 ベビーカソン」
社長賞受賞 | キャンパス点描 9-10
<ul style="list-style-type: none">● 国際交流留学生プラザ竣工式を開催しました● 日鉄ソリューションズとネーミングライツに関する協定を締結しました● みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者奨学金授与式を挙行了しました● 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP奨学金授与式を挙行了しました |
| 教員紹介 5
● 高橋 遼先生
(基幹研究院自然科学系 助教) | |
| 卒業生紹介 6
● 村上 千晶さん
(生活科学部 人間生活学科 生活文化化学講座 卒業) | |



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

2019年度入学式 学長告辞



505名の皆さま、ご入学おめでとうございます。お茶の水女子大学の教職員を代表して、ご入学を心からお祝い申し上げます。

また、ご列席のご家族やご関係の皆さまにも、謹んでお慶びを申し上げます。

ご来賓の皆さまには、お忙しい中、ご臨席を賜りましてまことに有難うございます。これからも、新1年生が本学で成長する姿をお見守り下さいます様、お願い申し上げます。

お茶の水女子大学は、1875年に文科・理科から成る日本初の女性のための官立高等教育機関として東京お茶の水の地に創設され、明治、大正、昭和、平成と143年余りに亘って、日本と世界の豊かな未来を創造する優れた女性人材の育成に努めて来ました。

そして、女性が学術研究を行うことが困難な時代から、本学の卒業生は世界的な視点に立って活躍してきました。例えば、わが国の女性科学者として、米国に留学し、初めて海外の学術誌に論文を発表して、初の女性理学博士となった保井コノさんや、女性として初の帝国大学生となり、二人目の女性理学博士となった黒田チカさん、また、第二次世界大戦前後の海外へ渡航することさえ困難な時期にフランスに渡って、ジョリオ＝キュリー夫妻の許で国際的な女性物理学者として活躍し、その後、日仏の研究者の懸け橋となった湯浅年子さん、帝国大学で無給の副手として研究を続け、初の女性農学博士となった辻村みちよさんなどを先駆けとして、現在に至るまで、数多くの学者・研究者が育ち、国の内外で活躍しています。また、わが国初の女医として知られている荻野吟子さんや、英国留学の経験を経てシャム国の教育に尽力し、その後東京女子大学の2代目学長を務めた安井つづさん、アメリカ留学の経験を活かして女性の権利向上を広く訴えと共に、日中教育文化交流に尽力し、さらに桜美林学園の創設発展に貢献した小泉郁子さんも、本学の卒業生です。これらの方々、本学で教鞭を執り、若い女性たちの育成にも尽力されました。

さらには、わが国の女子教育の推進のために学校設立に努力した卒業生も数多く、良く知られた例に、関東大震災の翌年1924年に本学の同窓会である桜蔭会がその名を冠して開設した「桜蔭学園」があります。

143年余の歴史を振り返ってみますと、その前半の70年間は、日本が近代国家としての基盤を構築するために、富国強兵、殖産興業の政策を執って、欧米先進諸国の制度、文化、産業、学術、技術を積極的に導入した時代であり、さらに、列国との間で利権を巡った争いを繰り返して来た時代でした。後半の70年余は、第二次世界大戦の不幸な経験を経て、平和国家としての立ち位置を世界に向けて明らかにし、国の体制と社会の仕組みを根本から転換させた時代だったと言えます。そして、それぞれの時代の起点において、本学には、新たな時代の要請に応え、時代をリードする優れた女性人材を育てて、社会

に送り出すことが求められて来ました。

第二次世界大戦後に、本学の卒業生や教職員たちが、女子高等師範学校から新製の国立総合大学としての「お茶の水女子大学」への移行を求めた文書には、「各分野にわたって指導的地位に立つ女性を養成することが本学の使命である」こと、「指導的人物の育成には広い教養と深い専門性が必要である」ことが述べられています。諸先輩たちの先見性には頭が下がりますが、このことは、第二次大戦後の日本における広範な女子教育の進展に、大きな意味を持ったのです。

こうして、長年に亘って本学に期待されてきた「教養と専門性を備えた女性リーダーの育成」は、現在でも変わることなく、お茶の水女子大学のミッションとして受け継がれ、本学では一貫して、各界で指導的な役割を果たす女性たちを育て、女性の自立と社会的活躍を支えてきました。

なお、新制大学に移行するに当たって、それまで長く愛称として親しまれていた「お茶の水」を大学の名称としました。

皆さまがご参集下さっているこの講堂は「徽音堂」と名付けられています。中国の周の時代の故事に由来する名称で「徽音」とは「美德」を意味します。本学に集うすべての人々が、美德ある人として育つことを願って、本学のシンボルでもあるこの講堂の竣工時に命名されました。皆さまは、この「徽音堂」で大学生活の第一歩を踏み出し、4年後にまた「徽音堂」で卒業の日を迎えます。これまでの卒業生の方々がそうであったように、皆さまも、4年間の学びを通じて「美德ある人」として成長して頂きたいと願っています。

なお、お茶の水女子大学に学びの場を求めて、国境を越えて留学して来られた方々への歓迎の気持ちを込めて、本日、日本の国旗や本学の校旗と共に、留学生の方々のお国の国旗を掲げています。今年は、学部と大学院を合わせて、中華人民共和国、大韓民国、ベトナム社会主義共和国、シンガポール共和国、タイ王国、モンゴル国、イラン・イスラム共和国、アフガニスタン・イスラム共和国、スロバキア共和国、タジキスタン共和国、エジプト・アラブ共和国、アメリカ合衆国の12カ国から留学生をお迎えしています。

留学生の皆さまは、言葉や習慣、生活や考え方、文化や価値観の違いなどに、戸惑われることもあるでしょう。困ったことがあった時には、遠慮されることなく、周囲の学生さんたちや教職員に声を掛けて、相談して下さい。そして、それぞれの夢の実現に向けて研鑽を重ね、この徽音堂で、晴れて卒業の日を迎えて頂きたいと思います。

今朝、正門を入られる時に、新しい芸術的な建物に目を奪われた方もいらっしゃると思います。「国際交流留学生プラザ、Hisao & Hiroko TAKI PLAZA」と名付けられたこの建物は、先週28日に竣工式を迎えましたが、本学の明るい未来を象徴するような美しい姿





が印象的です。この特徴ある建物は、私たち卒業生や教職員など、本学に集う人々の20年来の夢であった、国際交流、世代間交流、地域交流の場としての施設ですが、本学の学長特別顧問をお務め下さっている「ぐるなび」創業者の滝久雄さまご夫妻からの多額のご寄附によって建設の運びとなったもので、東京オリンピック2020に向けて建設中の国立競技場の設計者でいらっしゃる隈研吾さまが設計して下さいました。プラザの中には、日本が誇る世界的な芸術家でいらっしゃる宮田亮平さま、中島千波さま、日比野克彦さまの手による美しいパブリックアートが設置されています。

また、大学と附属校園の数多くの同窓生、ご関係の皆さま、新旧の教職員からのご寄附によって、同窓会コモンズを併設することが出来ました。

大学の同窓会である「桜蔭会」の事務室や会議室なども、コモンズに設置されて居て、同窓会の先輩たちが、卒業生の様々なネットワークを通じて、若い方々の活躍を支援して下さいます。時には同窓会コモンズを訪ねて、先輩たちの活動をご覧になり、そのネットワークを活用して頂きたいと思います。

皆さまは、プラザが建ち上がってから、記念すべき最初の入学生です。

お茶の水女子大学は、小規模な大学ではありますが、文教育学部、理学部、生活科学部の3つの学部と大学院研究科における広い学問領域が用意されており、また、特色ある機構やセンターを備えています。それぞれが特色ある活動を推進すると共に、互いの垣根を出来るだけ低くして、学生さんたちに多様な学びの機会を提供しています。

このキャンパスを舞台に、皆さまには学修と多様な体験を重ねて頂きたいと思っています。そしてお茶の水における学びの成果が、皆さまの将来の夢の実現のために揺るがぬ土台となりますよう、願っています。

皆さまには、大学生活の中で、それぞれの夢を実現するための基礎となる「既成概念にとらわれず、原点に立ち返って考える力」、「自分を信じて、忍耐強く考え抜く力」、「新しい発想を生み出す力」、そして「自ら判断し、その判断に責任を持つ力」を養って頂きたいと思っています。

その上で、多様な人々と手を携えて、平和で公正な社会、人々が幸せに暮らせる社会を創るために努力して頂きたいと思います。そのためには、「様々な背景を持った人々と理解し合い、多様性を受け入れて互いに尊重し合う精神」と、「自らを相対化することのできる客観性」を身につけることが必要です。

大学での学びは、これまで皆さまが経験して来られた学びとは、大きく異なっています。高等学校までは、解答が用意された問いに答えるような、受身の学びが多かったと思いますが、大学では、皆さま自身が主体的・能動的に学びに関わる必要があります。皆さまの前に

大きく広がる学問の世界から、どんなことをどのように自分のものにしていくかは、ひとえに皆さま自身の考え方、対応の仕方に掛かっています。一日も早く大学での学びの流儀を自分のものとして、それを楽しんで頂きたいと思っています。

皆さまが学問する中で、自然の仕組みの巧みさや、法則の美しさを知る時の感激は、忘れられないものになると思います。また、人々が創り上げてきた文化や芸術などの豊かさを知ること、素晴らしい経験になるでしょう。そうした経験から、新たな発見や独創的な理論が生まれるかも知れません。皆さまは今、胸がドキドキするような学問の扉を開こうとしているのです。

大学生活を送る中で、皆さまの世界は、社会的にも大きく広がります。多様な国や地域で生まれ育ち、異なる資質・能力や文化的背景をもった友人たちとの出会いや、大学外での活動の広がりも、皆さまにとって豊かな成長の機会となります。多様な人々と共に、知的な活動や社会的な活動に自主的、積極的にに関わり、研鑽を重ねることは、皆さまを大きく成長させてくれるものです。それこそが、大学生活の醍醐味です。

また、皆さまの先輩たちは、学問に情熱を傾けると同時に、東日本大震災などの大規模災害で被災された方々の支援や、一人親の子ども達や一人暮らしのご老人など、社会的に弱い立場にある方々を支援するためのボランティア活動にも熱心に取り組んでいます。また、それぞれの趣味を活かし、新たな友人を作るためのサークル活動などを楽しんでいます。

皆さまはこれから、お茶の水女子大学で、新たな経験を積んでいくことになりますが、その中で、予想もしなかった困難に出会うことも考えられます。でも、困難を乗り越えるたびに、人は磨かれて、成長します。それが、自分でも気付かなかった能力や可能性に気付く機会ともなります。既に踏み慣らされた安易な道を歩むのではなく、時には、まだ誰も踏み入ったことのない道を選択する勇気を持って頂きたいと思います。大学生時代という貴重で贅沢な時間を有効活用して、自分自身の可能性を思い切り開花させて下さい。本学の校歌「みがかずば、玉もかがみもなにかせん。学びの道もかくこそありけれ」にありますように、自分自身を磨き、一生を通じて学び続けて、それぞれの夢を実現させて頂きたいと願っています。

こころと身体の健康を大切に、学園生活を思い切り楽しんで下さい。皆さまのこれからの実り多い大学生活を心からお祈りして、お祝いの言葉を結びます。

改めまして、ご入学、まことにおめでとうございます。

2019年4月4日

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子



学長からのメッセージ

学生のアクティビティ

理学部情報科学科4年生の

飯島 緋理さん、伊藤 桃さん、栃木 彩実さんが、

2019年3月20日に開催された

ピジョン社主催「学生アイデアコンテスト2019 ベビーカソン」

において、社長賞を受賞されました。

今回の受賞について、学生の皆さんに
お話を伺いました！



参加されたコンテストの概要を教えてください。

この大会を主催した育児用品メーカー、ピジョン株式会社は、IoT（もののインターネット）などの最先端技術のいち早い導入によって、より子育てしやすい環境の実現に向け取り組みを進めています。その一環として今回「赤ちゃんやママとそのご家族の毎日をもっと快適に楽しくするIoTを活用した未来のベビーカー」について大学生を対象に提案を募集し、最終的に、東京工業大学、お茶の水女子大学、湘南工科大学、千葉工業大学、日本大学の五大学による提案の発表と審査が行われました。

ベビーカソンはベビーカーとハッカソンを組み合わせた造語です。

コンテストに参加しようと思った きっかけは何ですか？

学内のメールでこのコンテストの情報を知ったのがきっかけです。メールを読み、同じ学科で普段から仲のよかった三人で応募してみようという流れになりました。情報科学科出身としてIoTに関連する何かを作りあげてみたかったからです。

発表されたアイデアを詳しく教えてください。

私たちは、今回のコンテストで「散歩」に着目し、「快適」と「安心



安全」に重きをおいた「見守り型散歩コース推薦ベビーカー」を提案しました。

機能は、主に三つあります。一つ目は「顔・視線認識」です。ベビーカーに内蔵カメラを設置し、赤ちゃんの顔と視線を認識することで親子の安心感を醸成します。顔認識ではベビーカーの操縦者の手元のデバイスに常に赤ちゃんの顔を表示させ、かつ赤ちゃんが笑顔か寝顔かを判定します。視線認識では赤ちゃんが実際外の景色の何に反応しているのかを物体検出を使って判定します。これらは次の機能、「ルート推薦」で活用します。

ルート推薦は赤ちゃんの笑顔や寝顔、凝視する対象のものが多かった散歩道はマップ上に自動記録。そのビッグデータが集められ、散歩中に赤ちゃんの笑顔や凝視が多かったコースはアクティブコースとして、寝顔が多かったコースはおやすみコースとして二種類の「推薦コース」が作成され、将来的には不特定多数の親同士でシェアできるようになる、という想定です。

最後に、「動画像保存」です。これは散歩中に赤ちゃんが笑顔になると自動で写真が撮影される、という機能で、親子で散歩の楽しみをもっと共有して頂きたいという思いで考えました。

応用的な使い方としては、ルート推薦を全自動にするのではなく半手動的にルートを作成することです。これにより突発的に起こる工事や危険な場所を避けることができたり、ベビーカーが入れるカフェやレストランなどを通る道を作れるようになります。また、ベビーカー



Congratulations!

に英才教育を掛け合わせて視線認識で検出された物体の英単語を流すことも考えました。

発表当日は、これらの機能の開発をしてデモンストレーションも行いました。

発表にあたり苦労したことや、コンテストを通じて成長したことがあれば、聞かせてください。

一ヶ月という制限が長いようで短く、限られた期間内で構成を練るところからプレゼンの内容まで全て考えなければならないので大変でした。出来る限り時間を作り、話し合うことによって発表内容を充実させることに注力しました。また、発表内容やアイデア自体を充実させるだけでなく、発表を聞いてもらう人たちに、わかりやすく聞いてもらえるようなプレゼンの内容構成や見せ方を工夫するのに何度も試行錯誤を繰り返しました。

大変なことも多かったのですが、チームで一つの成果物をより良い状態で作り上げることができたのは、今回のようなチャンスでないとなかなかできないものだったので、非常に良い経験となりました。

今後の目標はありますか？

三人でこのコンテストが終わった後に話したことは、学生時代にしか出られないコンテストもたくさんありますので、今後も機会があつ

たらこのようなコンテストに積極的に参加していきたいということです。また、三人が共通して今後の新たな目標に掲げたのは「どのような状況においても、自分自身の立場・役割に責任を持ち、周りの環境や仲間へ貢献していくこと」です。今回のコンテストで、私たちは三人それぞれが何の役割を担うかを設定することにしました。そのおかげで、メンバー全員がきちんと責任を持ち、個々の立場で自分たちの考えたアイデアをより良いものにしよう、よりわかりやすいように伝えようと努力することができましたし、三人それぞれの意見や考えを率直に言うことができました。誰一人手を抜くことなくこのコンテストに全力で望むことができたのです。また、全てが分担作業というわけではなく、アイデアの方向性であったり、プレゼンの構成などを考える時は三人が一緒になって入念な話し合いを何度も行いました。今回はこのメンバーで「ベビーカソン」というコンテストに参加する上での話でしたが、このような姿勢をこれからも生かしていけたらと考えています。

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、基幹研究院自然科学系助教の高橋遼先生をご紹介します。高橋先生のご所属は、学部では理学部物理学科、大学院では理学専攻物理科学コースです。



本当に使えるのは自分なりに噛み砕いて
理解できている知識

Ryo Takahashi
高橋 遼

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください

宮城県仙台市の出身です。大学は東北大学です。理学部物理学科を卒業して東北大学大学院に進学しました。学位も博士（理学）を東北大学で取得しました。学位取得後は、茨城県の日本原子力研究開発機構で1年ほど博士研究員をしていました。実は、在学中からそこで基礎研究をするグループに所属して実験をしていました。その後、お茶大に平成29年3月に着任しました。

Q 専門の研究についてお話を聞かせてください

専門はスピントロニクスです。「エレクトロニクス」と「スピン」という言葉からついた名称です。物質の性質の多くを決める電子には、電荷とスピン角運動量（電子の自転として例えられる磁石の起源）の自由度があります。エレクトロニクスにおいては電荷の流れ（電流）が主として利用されますが、スピントロニクスではスピン角運動量の流れ「スピン流」をも利用します。スピン流によって輸送される角運動量を利用することで、物質の性質を発現・制御しようというわけです。角運動量はあらゆるところにあります。磁石や光にもありますし、当然、物を回転させることで角運動量は生じます。スピン流を介してこれらの角運動量を相互に変換、生成、制御することが、スピントロニクスにおける一つの研究主題となります。

私は物体の回転を利用したスピントロニクス現象を実験的に研究しています。回転といっても運動する液体中にできる渦を利用します。例えば、水の流れに棒を突きさすと、その下流

に渦ができます。運動する液体は目に見えずともこのような渦、「渦度」という角運動量をもっています。この渦度によって生成されるスピン流を金属の液体を利用することで電氣的に測定し、生成、制御します。物質中においてスピン流は、極めて短い長さスケールで散乱され、そのスピン情報を失います。そのためスピントロニクスの研究対象は固体の薄膜構造が主となるのですが、私の研究では液体でかつ薄膜と比較すると大きなサイズの流路を用いており、力学的な回転運動とスピン流との関わりを対象としているところに特徴があります。

Q ご専門を選択したきっかけについて、お聞かせください

大学に入学したときから物性実験の研究をしたいと思っていました。物性というのは、物質の性質のことです。物性分野を選んだのは、身近な現象を解き明かすことに興味があったからです。子どもの頃から、手を使って何かものづくりをしたり、自由研究で実験したりするのが好きでした。だから、理論より実験を選んだのだと思います。

スピントロニクスとの出会いは、学部4年生に進級する際、卒業研究の配属先を決める時でした。ちょうどそのタイミングで着任した新任の先生がスピントロニクスの研究をしていて、聞いたことのない新しい物性現象の話題に興味を持ち、その研究室を選んだのがきっかけです。

Q お茶大生に向けてのメッセージをお願いします

学部生のうちに、研究の土台になる基礎知識を自分なりに理解しながら修得していくことが、とても大事だと思います。物理は歴史が長くて基礎知識の量は多いですが、これが別の研究者と議論するときに共通知識として重要になります。研究は自分ひとりだけで進められるものではなくて、誰かと話をして議論することで進展していきます。例えば、私が学生のと時から所属していた研究グループでは、実験と理論の研究者が協力して議論をしながら研究を進めていました。自分とは別の分野の人と話をするのもあって、それも研究を進展させるには重要です。そのときに、相手の話を自分の分野に当てはめて理解するのにも、自分の話を相手にわかるように話すのにも、いわゆる共通言語として使える知識が重要になってくると思います。本当に使えるのは自分なりに噛み砕いて理解できている知識になります。将来自分の研究テーマを自ら進めていけるよう、そのような土台作りとして勉学に励んでいただければと思います。

文責：基幹研究院自然科学系准教授
工藤 和恵





子どもの笑顔は
保育教諭への
信頼の証

Chiaki Murakami
村上 千晶

昭和女子大学附属昭和こども園
保育教諭



プロフィール

香川県出身

2015年3月

お茶の水女子大学 生活科学部
人間生活学科 生活文化学講座 卒業

2015年4月

社会福祉法人 新栄会
しんえい子ども園 もくもく 保育士

2018年4月

昭和女子大学附属昭和こども園 保育教諭
(0歳児クラス リーダー)

いま、どんなお仕事を されていますか？

昭和女子大学附属昭和こども園で保育教諭をしています。この仕事に就いて5年目になり、現在の職場では0歳児クラスを担当しています。0歳児の子どもたちは、発達が著しく、個人差もあります。毎日じっくり向き合う中でちょっとした表情やしぐさ等から、空腹や不快なこと、「こうしたい」という欲求など言葉では言い表せない様々な子どもたちの思いを汲み取り、丁寧に応えています。そうした日々のコミュニケーションのなかで、愛着や信頼の気持ちが育まれ、保育教諭と子どもの豊かな関係性が築かれていくように思います。なにげないことで、子どもと目が合い笑顔で応えてくれたとき、やりがいを感じます。子どもの笑顔は保育教諭への信頼の証であり、心が通じ合っているなど感じる、とてもうれしい瞬間です。

保育教諭の仕事はいろいろありますが、な

かでも一緒に遊び、楽しい時間を共有することを大切にしています。遊びを通してさまざまな体験をし、そこから子どもたちは多くのことを学んでいます。基本的には子どもが好きな遊びを選びとり、それを見守りますが、年齢や遊びの様子を見て、保育教諭から遊びを提案することもあります。0歳児クラスでは、子どもとの触れ合いを多くもち、ゆったりとした温かい雰囲気づくりを心がけています。もう一つ、子どもの生活のリズムを整えることも重要です。家庭と連携し、子どもの健康状態に気をつけながら、園での食事や睡眠といった一日の生活リズムを整えていきます。子どもによってリズムは異なるため、個々の様子に合わせて、十分な栄養と休息をとり、健康で心地よく過ごせるようにしていきます。遊びにしても、生活にしても、保育教諭は子どもたちが健康で、快適に過ごせるように環境づくりをしていくことが重要な仕事だと考えています。

在学中はどんな勉強や 経験をしましたか？

入学したときは将来に対して、まだ明確な目標をもっていませんでした。もともと子どもが好きでしたが、服にも興味があり、生活文化学を主プログラムとして選びました。現在の仕事をめざすようになったのは、大学3年生のときに、お茶大の附属幼稚園ではじめて保育の現場を目の当たりにしてからでした。保育教諭になりたいという願望を抱くようになり、国家試験の勉強をして保育士の資格を取得しました。在学中から保育園でアルバイトやボランティアをして、さまざまな経験を積んだこともよい経験です。

生活文化学の専門科目では、日本や西洋の

服飾の歴史を学びました。なかでも「色」に興味がありました。私は小さいときから、なぜか黄色がとても好きで、持ち物や部屋、服にいたるまで身の回りのものを全て黄色で埋めつけていました。あだ名まで「黄色」だったほどです。しかし服飾史の授業で、ヨーロッパでは黄色にあまりよい意味がもたれていなかったという歴史を知り、少しショックを受けました。そのとき色に対する価値観とは、個人や文化によって大きく異なるものなのだと実感し、さらに色について興味がわきました。そこで、卒業論文ではディズニープリンセスの衣装を色の観点から分析する研究に取り組みました。

学生へ メッセージをお願いします

私の場合、好きなことを選んで取り組んでいった結果、やりたいことが見つかり、それが仕事につながりました。やりたいことを仕事にできるということは、とても幸せなことだと思います。まだまだ勉強は足りませんが、私にとって保育士は天職だと感じています。やりたい仕事だから、もっともっと学びたいと思うし、そのために本を読んだり、大学の公開講座に参加したり、自己研鑽を続けています。みなさんも在学中に好きなことや興味あることを見つけて、やりたい仕事を見つけてもらえたらと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授

難波 知子

わたしのオフタイム

大学の時のサークル仲間と旅行に行ったり、食事に行ったりしています。2か月に1回はディズニーランドに行くと気分転換するのも楽しみの一つです。

附属学校園からの お知らせ ～いずみナーサリー便り～

キャンパス内へのお散歩では、毎日出会う草や木や花、“オチャネコ”やカメや虫などのいきものたちが、昨日とは違う姿や様子を見せてくれます。今日も変わらずにまた会えるという安定感と、不思議や変化が日々あるわくわく感の両方を存分に味わえるお散歩です。行き先の“ひろば”や中庭では、こども園の子どもたちも遊んでいて、「また会えたね」「一緒にあそぼう」のサインを送り合うこともしばしばです。

ナーサリーの建物は、附属幼稚園の園庭の一部である「おやま」と隣り合っています。幼稚園の子どもたちの大好きな場所である「おやま」は、ナーサリーの子どもたちにとって格好の外遊び空間です。

5月の連休前後には、プランターに野菜の苗を植えて、せっせとみずやりをします。夏には、収穫したナスやピーマンを目の前で味噌炒めにしてもらって食べたり、そらまめやとうもろこしの皮をむいて茹でてもらって食べたり、すいかわりをしたり。小麦粉粘土や寒天、泥んこなどの感触遊び、水遊び、落ち葉のプールや雪遊び、どんぐりや落ち葉拾いやそれらを使った造形、大きな紙・小さな紙での描画、絵本やままご、赤ちゃん人形のお世話や寒い日の外遊び後の“足湯”などなど、子どもたちは書き尽くせないほど様々なことを楽しんでいます。たっぷり遊んだ子どもたちはお腹がペコペコ。昆布とかつお節で丁寧にダシをとったお味噌汁のにおいご飯の炊けるにおいが子どもたちの身体に染み渡ります。

お茶の水女子大学附属いずみナーサリー（以下ナーサ0歳児から年度内に3歳になる2歳児までの小さな子保護者は、学業や仕事と子育てとを両立させようと日々キャンパスの片隅の、小さなおうちのようなナーサリーのびのびと、そして仲間と共に過ごす毎日を、少しご紹介

お昼を食べてお昼寝をして、目覚めたら、3大アレルギーフリーのナーサリー特製おやつを食べてエネルギー補給。お迎えまでの時間を過ごします。

たっぷり遊び、しっかり食べて心地よく眠ることで気力体力を満ちながら、仲間と共に笑い合い、時にぶつかり泣いたり立ち止まったりしながらの子どもたちの生活が、子どもたち自身によって、四季を通じてこうして日々織り成され積み重ねられていきます。



さて、ナーサリーには満ち足りた豊かな日常に大きな負担のかかるような大きな行事はありません。ただ、10月と3月に行う「親子であそぼう会」は、たくさんの家族が集う、文字通り、親子で遊ぶ和やかで楽しいひとときです。また、卒園児や転園・退園した子どもたちとその家族が集う「ナーサリー同窓会」も、お茶大の学園祭「徹音祭」の1日に合わせて開いており、0、1、2歳の在園児から2018年度は小学6年生の卒園児まで、たくさんの子どもたちが家族と一緒に参加してくれました。

このように、どの子もその子らしくのびのびと育ちその育ちを通じて保護者や保育者も育ち合えるような「保育の日常」があります。同時に、他の保育施設等を訪ね、現地の保育者の方々と共に保育をし、共に考えさせてもらうような機会もナーサリーは持ち続けています。2016年4月の熊本地震や2018年9月の北海道胆振東部地震の被災地の保育園やこども園にナーサリー職員が赴き、保育のお手伝いをしたり保育者のお話を聞かせてもらったりしてきました。

附属幼稚園やこども園と実際に隣り合っているように、遠く離れている人や園とも隣り合うようにつながり支え合う方途を、今後とも探り実践していきたいと考えています。

ナーサリーの前身である「いずみ保育所」は2002年に誕生し

同窓会の様子

りー) は、当月で6ヶ月になる
どもたちのための学内保育施設です。
奮闘する学生や教職員です。
で、どの子もその子らしく
介しましょう。



ました。すべてのいのちの源の意を込めて、元学長の本田和子先生(児童学)が「いずみ」の名を付けられたそうです。みずみずしい生命の循環を支える「いずみ」。とても小さなナーサリーですが、入所条件を満たす希望者の全員受け入れを守りつつ、子どもたちや保護者だけでなく、隣り合うようなかわり方につながってくださる多くの方たちにとっても、風通しのよい、あたたかくやわらかな陽の差し込む「いずみ」のような存在でありたいと思っています。



親子で遊ぶう会の様子

附属学校園での出来事 (2019年4月～6月)

【いずみナーサリー】

4月

- 新年度保育開始
- 避難訓練

【附属幼稚園】

4月

- 1学期始業式
- 入園式
- 保護者全体会
- 避難訓練
- PTA総会
- 小石川植物園遠足(5歳児)
- 親子で遊ぶ日(4歳児)
- 同窓会ちぐさ会 第21回ホームカミングデー
- 誕生会
- 子どもの日の集い

5月

- 健康診断
- 新宿御苑親子遠足(全員)
- 避難訓練(引き取り訓練)
- 誕生会
- 幼稚園主催保護者向け講演会
講師: 村田 容常氏
- 教育実習開始

6月

- 誕生会
- 避難訓練
- 親子で遊ぶ日(5歳児)
- ジャガイモ掘り(4歳児・5歳児親子)
- 親子で遊ぶ日(3歳児)
- 公開保育研究会(第1回)

【附属小学校】

4月

- 入学式
- 始業式・離任式・着任式
- 各学年保護者会
- 校外学習(1年小石川植物園)
- 委員会活動(5・6年)開始
- 避難訓練
- 全国学力学習状況調査(6年)
- かがみ会合同委員会
- 健康診断
- 新入生を迎える会
- 通学班別会
- 授業参観・保護者総会・教育後援会
総会・かがみ会総会

5月

- 通学班別会
- 郊外園活動(サツマイモ植え3・4年)
- 交通安全教室(1年)
- 婦国児童教育学級保護者会
- 特別支援講演会(1年保護者対象)
- 教育実習開始
- 運動会
- 校外学習(1年: 多摩動物園)

6月

- 校外学習(3年: 木更津)
- 避難訓練、引き取り訓練
- 校外学習(4年: かつば橋・野田)
- 土曜参観日
- 不審者対応訓練

5月

- 保護者会
- 災害伝言ダイヤル試行
- 避難訓練(地震)
- 個人面談
- いずみナーサリーの日

6月

- 教育後援会総会
- 避難訓練(火災)
- 個人面談
- いずみナーサリーの日

【附属中学校】

4月

- 入学式・始業式・新任式
- 1年オリエンテーション
- 避難訓練
- 3年全国学力調査
- 歓迎会
- 全学避難訓練
- 保護者会・PTA総会・教育後援会
総会

5月

- 全体保護者会・学年保護者会・部活
保護者会
- 生徒総会

6月

- 体育大会
- 健康診断
- 3年修学旅行(東北方面)
- 2年林間学校(志賀高原)
- 1年グローバル・キャンプ

【附属高校】

4月

- 入学式
- 始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生防災訓練(池袋防災館)
- 3年修学旅行(沖縄)
- 避難訓練(地震)
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 各学年保護者会

5月

- 春季健康診断
- 1年 学年合宿(諏訪方面)
- 2年 フィールドワーク
- 3年 学力テスト
- 体育祭
- 面談週間(～6月初め)

6月

- 自治会総会
- 学校説明会
- Cartier シンポジウム
- SSH運営指導委員会
- 3年 GTEC
- 期末考査
- 教育実習
- 1年学力テスト・3年保護者会

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

国際交流留学生プラザ竣工式を開催しました……………

国際交流留学生プラザ（英語名: Hisao & Hiroko TAKI PLAZA）は、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的をもつ集いの場として建設されました。建設にあたり、未来開拓基金への滝久雄（株式会社ぐるなび 株式会社NKB創業者 本学学長特別顧問）・裕子御夫妻や同窓生からのご寄附をはじめとして、教職員・在校生を含む多くの方々からのご支援を頂きました。



国際交流留学生プラザの外観(上)と内観(下)

設計は、隈研吾建築都市設計事務所により、自然豊かなキャンパスとの調和を図りながら進められました。

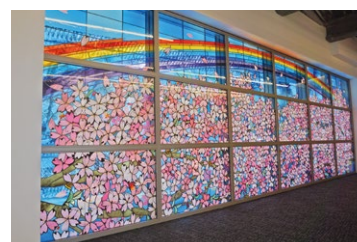
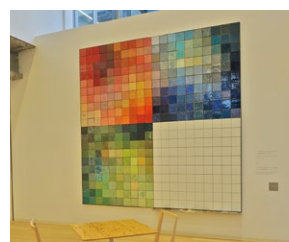
また、各階には日本画家の中島千波氏、現代美術家の日比野克彦氏、金工作家の宮田亮平氏によるパブリックアートが設置され、本プラザに集う皆様に快適に過ごしていただける空間となりました。

2019年3月28日の竣工式では、室伏きみ子学長の挨拶、澤和樹東京藝術大学長によるバイオリンの祝賀演奏（タイスの「瞑想曲」）に続いて、滝久雄氏、隈研吾氏、中島千波氏、日比野克彦氏からお言葉を頂戴しました。滝久雄氏からは、室伏学長とのご縁から、国際交流が盛んで外国人留学生の受入に積極的な本学の取組みを知り、交流施設建設のための寄附に至ったという経緯や、国籍も言葉も年齢も超えた交流のために今後本プラザを役立てて欲しいという希望が述べられました。また、中島千波氏からはステンドグラスの原画の寄贈も行われました。竣工式に続いて、日比野克彦氏作品「レッツ3つの色」、中島千波氏作品「櫻花爛漫」、及び宮田亮平氏作品「シュプリングン＜世界に向かって＞」の除幕式が行われました。

内覧会の後は祝賀会が行われ、伯井美徳文部科学省高等教育局長、成澤廣修文京区長、内田伸子桜蔭会長から祝辞をいただきました。祝賀会ではお茶大生によるパフォーマンスも行われ会場を大いに盛り上げていました。

竣工式・祝賀会には約130名が参加し、盛況のうちに閉式となりました。今後このプラザが様々な活動や情報交換の場として積極的に活用されることが期待されます。

右: 宮田亮平氏作品「シュプリングン＜世界に向かって＞」
左下: 日比野克彦氏作品「レッツ3つの色」
右下: 中島千波氏作品「櫻花爛漫」



竣工式の様子

日鉄ソリューションズとネーミングライツに関する協定を締結しました……………



大学食堂の愛称名看板



共通講義棟3号館409室（情報科学講義室〔1〕）の愛称名看板

国立大学法人お茶の水女子大学（所在地：東京都文京区、学長：室伏きみ子、以下お茶の水女子大学）と日鉄ソリューションズ株式会社（旧：新日鉄住金ソリューションズ株式会社）本社：東京都中央区、代表取締役社長：森田宏之、以下NSSOL）は、大学施設のネーミングライツ（施設命名権）取得に関する「国立大学法人お茶の水女子大学ネーミングライツに関する協定書」（以下「本協定」）を2019年3月22日に締結しました。

お茶の水女子大学は、教育研究環境向上を図るための財源獲得を目的に、ネーミングライツ制度を2019年2月に導入しました。このたび、大学食堂と共通講義棟3号館409室（情報科学講義室〔1〕）のネーミングライツ公募にNSSOLが応募し、選

定委員会による審査を経て、ネーミングライツ・パートナーに選ばれました。2019年4月から2022年3月まで、各施設の名称は「NSSOL Kitchen（大学食堂）」と「NSSOL IS-Room（409情報科学講義室〔1〕）」になります（※ISはInformation Sciencesの略）。

お茶の水女子大学が、学内施設のネーミングライツ（命名権）に関する協定を締結するのは初めてとなります。対象施設の大学食堂は、学生や教職員等年間延べ11万人が利用しています。共通講義棟3号館409室（情報科学講義室〔1〕）は、主に理学部情報科学科の学生が専門課程の講義を受講する教室です。

NSSOLは、情報技術のプロフェッショナルとして社会・経済の持続的な発展に貢献していくと共に、これまで複数の大学で寄付講義や講師派遣、インターンシップの受け入れ、奨学金の提供など産学連携を推進し、これからの社会に求められる次世代人材の育成に貢献されてきました。

本協定を機にお茶の水女子大学とNSSOLは、両施設の愛称名が多くくの学生に親しまれ、定着するよう努め、教育研究環境の一層の充実に取り組み、産学連携を強化します。

みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者 奨学金授与式を挙行了しました

2019年5月27日、2019年度みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者奨学金授与式を挙行了しました。

みがかずば奨学金は、お茶の水女子大学へ入学を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもらうことを目的として2011年度に設立されたものです。今年度は、入試前に出願して内定を得た者の中から、本学に入学した20名の学部1年生が受賞者となりました。

学部生成績優秀者奨学金は、学部3年生に在籍する者のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた学生について、これまでの努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として2011年度に設立され

たものです。今年度は、学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生（中途に休学期間がない者に限る）の中から、厳正なる審査の結果、25名の学生が受賞者となりました。

式典では学内教職員臨席のもと、森田理事・副学長から賞状を授与されました。

また、学長、遠藤桜蔭会副会長、神崎後援会会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨学金受賞者の中から1名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への意気込みについて挨拶を述べました。



みがかずば奨学金



学部生成績優秀者奨学金

桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工 奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP奨学金授与式を挙行了しました

2019年5月29日、2019年度桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金・アバナード奨学金・KSP-SP奨学金授与式を挙行了しました。



桜蔭会研究奨励賞は、平成19年に本学同窓会の桜蔭会の助成により発足し、平成25年度入学者より一部制度を変更し入学前予約型奨学金となりました。本学学

部から大学院博士前期課程に進学した学生に贈られるもので、今年度は20名が受賞者となりました。

大学院博士後期課程研究奨励賞は、大学院生（博士後期課程）奨励基金をもとに平成25年度入学者から設立した入学前予約型奨学金です。本学大学院博士前期課程から大学院博士後期課程に進学した学生に贈られるもので、今年度は7名が受賞者となりました。



錦織チサ工奨学金は、平成27年度の大学院博士後期課程入学者から設立された入学前予約型奨学金です。寄附者の錦織チサ工様は、昭和38年3

月に本学文教育学専攻科を修了され、都立高校の国語科教諭をされておりました。本学大学院博士後期課程に引き続き進学する学生の研究奨励に資するご意向によるもので、今年度は2名が受賞者となりました。



アバナード奨学金は、アバナード株式会社様からのご寄附によって平成29年度入学者から設立された入学前予約型奨学金で、本学理工系分野の学生の学修支援を目的としています。今年度は学部1年生1名と大学院博士前期課程1年生1名が受賞者となりました。

KSP-SP奨学金は、株式会社KSP-SP様からのご寄附によって昨年度から新たに設立された入学前予約型奨学金で、マーケティング分野を志す本学大学院博士前期課程の学生の学修支援を目的としています。今年度は3名が受賞者となりました。



式典では学内教職員臨席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、桜蔭会会長の高崎様、錦織様、アバナード株式会社COOのRoberto Pietra様、株式会社KSP-SP代表取締役社長の山中様からお祝いと励ましの言葉がかけられました。



写真：写真部

お茶の水女子大学学報 第 261 号

▽発行日：2019 年 7 月 13 日

▽発 行：国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電 話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。